

共育セミナー

発達障害領域の作業療法について

講師： うめだ・あけぼの学園 副園長 酒井 康年
児童発達支援管理責任者



発達期の作業療法であっても、基本的には、ScienceとArtsを備えた作業療法を提供するという至極当たり前のことがスタートになる。つまり、対象者の作業およびその構造を理解・分析し提供することである。その上で発達期に特有なこととして以下の点を考慮すべきではないかと考える。作業療法の対象者は子どもであり、育ちを支える観点が重要である点。そして、子どもだけでなく、家族も視野に入れるべきであり、その間で、主訴がズレることが多い点。アセスメント・分析・プログラムに発達の視点を組み込むべき点。生活の様子を把握すること、生活の場への汎化を考慮することは当然であるが、それは家庭生活の他に、保育園・幼稚園・学校という社会参加の場も含める点。当日は、これらの点について説明を加え、紹介を行なっていく。